

かずさの博物誌

クマゼミ

～日本最大のセミ～

文・写真／成田篤彦

2017.8.20

「シャー、シャー、シャー、シャー」とクマゼミの鳴き声が近所の桜並木から、聞こえてきます。

今夏、七月十二日、朝七時ごろのことです。今年初めてのクマゼミの鳴き声です。

「ああ、今年も本格的な夏がやってきたか」と思いました。

八月八日の早朝、台風五号が通過後、清見台の三つの学校敷地内ではクマゼミの蝉時雨を聞きました。さわやかで、元気づけられる鳴き声です。

ちなみに、蝉時雨とはセミが多く鳴きたてるさまを言います。

もうすっかり、クマゼミは上総に根付いてしまったと思えました。

実は、クマゼミを房総で初めて聞いたのが、一九七三年八月十五日に南房総市鋸南町の東京湾に浮かぶ浮島に渡ったときでした。

そのころの北限の生息地は三浦半島の城ヶ島でした。

そこで、一九七五年に岡山県産のクマゼミの標本と鳴き声を示し、約三百名の高校生にアンケート調査をしました。

その結果、市原市から鋸南町ま

で、特に、富津岬周辺で毎年複数回鳴き声が聞かれることが分かりました。

その後、二〇〇〇年代には毎年、庭のヤマザクラの木に訪れ、鳴くようになりまし。

しかし、鳴き声が聞こえても木のどこにいいのかわかりません。

二〇〇八年八月、たまたまクマゼミの鳴き声を聞いて、急いで庭に出ると一匹のクマゼミがヤマザクラの木の茂みに飛び込んできました。

双眼鏡で見るとアブラゼミより一回り大きく、はねは透明、頭と胸が四角でいかめしい感じのセミでした。そして、腹部を上げたり下げたりして、大声で「シュワ、シュワ、シュワ、シュワ」と懸命に鳴いていました。そして、二三分鳴いたのち、小さな黒球になって、飛び去りました。

桜葉の緑の中で聞く、クマゼミの鳴き声は盛夏の早朝の涼風を感じさせます。

クマゼミや葉うら返して風の道
弓削久子（大野雑草子編『動物の俳句を詠むために』博友社）。

さて、上総の気温とクマゼミの分布の話です。

関東のクマゼミと関西のそれが同じ生理的な性質をもっていると仮定します。

関西の例ではクマゼミの発生可能な地域の温度条件は八月の平均気温が二五・一℃以上。一月の平均気温が三・〇℃以上です。



©成田篤彦



©成田篤彦

▲クマゼミのオス
=2008年8月10日
木更津市

▶電柱で鳴くクマゼミ
=2016年8月20日
木更津市

木更津市の一九七八年～二〇一五年の三八年間で、前に述べたクマゼミの発生可能な温度条件を満たさない年が一九八〇年代と九〇年代に計四回あるだけです。

したがって、一九七〇年代から、木更津市ではクマゼミがすぐる温暖な気候に達していたと言えるそうです。

そこに、植木の土と共に幼虫が運ばれてきて、富津岬などの温暖な海岸沿いの平地に棲みついたのでは？と推測しています。

その後、温暖化が安定するにつれて、二〇〇〇年代には上総の海岸沿いの各地に広がり、定着し始めたかと推測しています。

今後、上総の平地ではクマゼミの蝉時雨を聞く場所が増えていくと予想されます。

クマゼミの蝉時雨を騒音と感じる方もいると思いますが、夏の早朝のさわやかさとか元気づけられる鳴き声ととらえ、夏の風物詩になるといいと思っています。



©成田篤彦

▶クマゼミの生息地 公園の桜並木

＝二〇一七年八月十六日 木更津市

memo

クマゼミ

カメムシ目セミ科

体長オスで約四十～四十八ミリメートル。日本産セミでは最大。繁殖期は七月下旬から八月。

倉西良一著「クマゼミ」岩槻邦男・堂本暁子編08『温暖化と生物多様性』築地書館